

《担当者名》臨床福祉学科全教員

【概要】

演習（ゼミナール）では、臨床福祉学科教員が提示する学修課題にあわせて所属ゼミナールを決め、教員が示す学修課題と学生が設定する学修課題にあわせ、所属ゼミナールごとに年間の学修計画を設定する。それぞれの学修計画にそって、担当教員の指導のもと「資料収集」「調査分析」「分析・検討」などを行い課題を深める。これらのことを通して、4学年の授業科目「臨床福祉専門演習」「卒業論文」に繋げる。

なお、各教員の演習内容（学修内容）については3学年前期に提示する。その後、希望調査を行い担当教員（ゼミナール）を決定する。

【学修目標】

福祉に関する専門的事項について深く身に付く。

資料を調べ、批判的視点で資料を解釈することができる。

プレゼンテーションを行い、自分の言葉で専門的な学修内容を表現することができる。

卒業論文の課題設定に向けて、必要な資料、複数の課題を準備することができる。

関心がある学習分野の現状、課題等を調べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	学修内容の紹介、授業の進め方などについて	演習を担当する教員
2	福祉に関する今日的な課題についての検討（1）	福祉に関する今日的な課題について（教員と学生との検討）	演習を担当する教員
3	福祉に関する今日的な課題についての検討（2）	福祉に関する今日的な課題について（教員と学生との検討：「特別キャリアデザイン講座」における内容をも踏まえての検討）	演習を担当する教員
4	課題の設定・検討（1）	学生自らが関心を持つ学修課題について（学生の報告と教員及び学生と検討）	演習を担当する教員
5	課題の設定・検討（2）	学生自らが設定する学修課題 について（設定の進捗状況の報告と検討）	演習を担当する教員
6	課題の設定・検討（3）	学生自らが設定する学修課題について（設定の進捗状況の報告と検討）	演習を担当する教員
7	課題の設定（1）	学修課題に関する資料収集について	演習を担当する教員
8	課題の設定と自己のキャリアデザイン	設定した学修課題と将来の進路について	演習を担当する教員
9	資料収集・検討	学修課題に関する資料収集状況・課題に対する検討の進捗状況について	演習を担当する教員
10	課題の設定（2）	研究課題の「目標」「課題の内容（課題の意識、仮説など）」について	演習を担当する教員
11	課題の設定（3）	研究課題の「目標」「課題の内容（課題の意識、仮説など）」の報告について	演習を担当する教員
12	研究課題の設定及び課題の解決方法の検討	研究課題の「目標」「課題の内容（課題の意識、仮説など）」の報告について	演習を担当する教員
13	課題の設定及び課題の解決方法の検討	研究課題の「目標」「課題の内容（課題の意識、仮説など）」の報告について	演習を担当する教員
14	課題の深化	「研究課題」の発表と課題の明確化について	演習を担当する教員
15	まとめ	「臨床福祉専門演習」「卒業論文」の進め方とその学習に向けての準備（課題）について	演習を担当する教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーションの内容40%、 学修課題への取り組み状況60%により、総合的に評価する。

【教科書】

担当教員が必要に応じて指示します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて指示します。

【備考】

「特別キャリアデザイン講座」に参加すること。

【学修の準備】

この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で出席すること。問題意識を社会福祉研究法で学んだスキルにもとづき、研究レベルで展開するために必要な文献検討等が求められるので、関心がある専門分野の論文の収集、読解を行うこと。

予習：毎回、授業時に提示する内容に取り組むこと（80分間）。復習：毎回、授業時に提示する課題に取り組むこと（80分間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3,4,5